

中医における心腎の話

黄 懷龍

一、中医における心と腎



一、心の生理機能

＝心は君主の官、神を蔵す＝

（一）心は血脈を主る

《素問》「脈は血の腑なり」「心は身の血脈を主る」

1、行 血

心気が血液を推動して脈管の中を運行させ、栄養物質を全身に輸送すること。心臓のポンプ作用（推動作用）

2、生 血

営気の一部が心の気化作用によって脈管内で血液生成となる。

心臓正常な拍動は心気、心陽の推進と温煦作用及び心血、心陰の栄養と滋潤作用に頼っている。

(二) 心は神を蔵す

《素問》「心は神志を主る」「心は神を蔵す」

広義の神

体の臓腑機能を総括して、人体の生命活動の現れる。「心は五臓六腑の大主」である。

狭義の神

神は精神活動の総称で、「神明」「神志」とも言われ、大脳機能、中枢神経の機能とほぼ同じです。思考、分析、総合、帰納、判断、処理など、精神や意識、思維活動のことである。大脳の高次神経の機能に相当する。

（三）心の五行従属

●五体は脈で、その華は顔面にある

（五体・五華）

全身の血脈が心に属している。

顔面には豊富な血管が分布しているので、心の生理機能、循環系の状態をよく反映する。

●舌に開竅する（五竅）

舌が心の外候で、「舌は心の苗」とも言える、舌には豊富な血管が分布している、更に脳神経につながり、味覚や触覚、発声、言葉の構成などは心主血脈、心蔵神の生理機能に頼るものである。

●喜は心の志にある（五志）

精神情志活動の喜は心との関係が深い。

*五志：喜、怒、憂、思、恐

*喜び過ぎると、心神を損なうことになる、「喜傷心」と言われる、心主神志の生理機能にも影響する。

●汗は心の液（五液）

汗液は陽気によって津液を蒸騰して気化されて汗孔（玄府）から排泄される体液です。

*汗：津液が化生したものであり、血と津液は同じ源で、「汗血同源」である。

*発汗は心の機能を反映する

①心気虚：自汗

②心陽虚：大汗（冷汗）

③心陰虚：寢汗

二、腎の生理機能

＝腎は作強の官、精を蔵す＝

（一）精を蔵し、生長・発育・生殖を主る

精気とは、人体を構成する基本物質で、人体の成長発育及び各機能活動をささえる基本物質である。
先天の精（父母からの生殖の精）
後天の精（水谷からの精）

①生長・発育を主る

人体の生長・発育は精気の盛衰と密接な関係している。

②生殖を主る

生殖機能と性機能を促進する。

天癸：生殖機能の成熟を促す物質をいう。

(二) 水を司る

①体内での水液の貯留・分布・排泄を調節し、正常に維持する。

②腎の蒸騰気化作用

有益な水分を再吸収し全身の臓腑に分布する（昇）

不要な水分を尿に化し、膀胱へ運ぶ（降）

膀胱を調節する…開闔（貯留：闔、排泄：開）

(三) 納気を司る

納とは固摂、受納で、肺に吸入された清気を腎に納める働き、肺と共同して呼吸を調節する。

呼吸は肺が主っているが、吸気は腎に下らなければならない。吸気を腎に収めることで順調な呼吸が可能になる。このように腎の納気の機能とは、肺が吸入した精気を受納・固摂（摂納）するは働きをいう。

(四) 腎の五行従属

●五体は骨で、骨を司り、髓を生じ、華は髪にある（五体、五華）

腎は精を蔵し、精は髓を生じ、髓は骨を養う。髓は骨髓と脊髓、脳髓に分けられ、脊髓は上がって集まり、脳になる、だから脳は「髓海」と称されている。

腎の精気は骨格や歯（歯は骨の余り）脳髓などの栄養働き、体の成長、発育を促進する。

髪の成長は精と血に頼っている、腎は精を蔵して、その華は髪にある、又血液の濡養も必要である、髪は「血余」といわれる。

●耳と二陰に開竅する（五竅）

耳：聴覚機能は腎の精気と関係する。

二陰：前陰（外生殖器）と後陰（肛門）を指す、腎気は生殖、排尿、排便を調節している。

●恐は腎の志（五志）

腎は恐と関連が強い、恐は腎気を傷り二便失禁（腎気不固）をきたす。

恐と驚：恐は自発的で、物事に対してびくびくする状態を指す。驚は無自覚で突然受けるショックである。

●唾は腎の液（五液）

唾は腎の精気より化生されたもので、よく唾液を吐きだすと腎中の精気を消耗される。

二、心・腎病証の漢方治療



一、心病証の漢方治療

（一）心病証に用いられる生薬

心気虚（補心気）：人参、黄耆、党参、刺五加

心血虚（養心血）：熟地黄、当帰、竜眼肉、阿膠

心陽虚（温心陽）：桂枝、附子、乾姜、
（養心神）：酸棗仁、柏子仁、遠志、茯神
（通心脈）：当帰、丹参、川芎、三七

心陰虚（滋心陰）：生地黄、麦門冬、玉竹、百合
（養心神）：酸棗仁、柏子仁、遠志、茯神

心火上炎（清心瀉火）：黃連、蓮子心、竹葉心、燈心草

痰火擾心（清心豁痰）：牛黃、胆南星、竹瀝、天竺黃、
（醒腦開竅）：麝香、冰片、蘇合香、石菖蒲

小腸濕熱（清熱利水）：沢瀉、木通、淡竹葉、滑石

心陽暴脫（回陽救逆）：附子、肉桂
（益氣固脫）：人參、黃耆
（收澁鎮神）：竜骨、牡蛎、磁石

(二) 心病証の漢方治療

弁証	共通	主な証候	治療	常用方剤
心気虚	面色無華、動悸、気短、脈虚或いは結代	息切れ、動くと呼吸促迫、自汗、脈結代、又は遅、細弱舌淡。	補益心気 養心安神	養心湯
心陽虚		心気虚＋面色晄白或は灰暗、四肢冷え、浮腫、冷汗、舌胖淡、脈遅弱など	温通心陽 養心安神 重症では 回陽救逆	参附湯 参附竜牡湯 炙甘草湯
心血虚		眩暈、動悸、不眠、健忘、舌淡、脈細無力など	補血益気、 養心安神	帰脾湯
心陰虚		心血虚＋のぼせ、五心煩熱、盗汗、脈細数、舌質紅	滋陰養心 安神	天王補心丹

弁 証	主な証候	治療	常用方剤
心火上炎	口舌生瘡、舌がしみる、赤、尿短赤、排尿痛、不眠、のぼせ、舌質紅、脈数或は滑数	瀉心火、 或は滋陰降火	三黄瀉心湯、導赤散、黄連阿膠湯
痰火擾心	発熱面赤、神昏譫語、口渇気粗、便秘尿黄、黄色の痰、喉間痰鳴、心煩不寝。或は狂越妄動、癲狂精神錯乱など。舌は赤、苔は黄膩、脈は滑数。	清心化痰、通竅安神	黄連温胆湯 牛黄清心丸
心脈痺阻	心胸部締めつけて痛み、顔面のチアノーゼ、冷や汗、脈が微細で触れにくいなど	宣通心陽、活血化痰、芳香化濁	括篋薤白半夏湯、蘇合香丸

二、腎病証の漢方治療

(一)腎病証に用いられる生薬

腎精不足（補腎益精）：熟地黄、枸杞子、何首烏、鹿角膠

（補腎縮尿）：益智仁、覆盆子、桑螵蛸、蓮子

腎氣不固（補腎固精）：芡実、金櫻子、蓮子、山茱萸

（補腎止帶）：山茱萸、海螵蛸、金櫻子、椿皮

（補腎固衝）：杜仲、菟糸子、続断、山茱萸

（滋陰）：生地黃、玄参、枸杞子、女貞子

腎陰虚（潜陽）：龜板、鼈甲、牡蛎、珍珠母

（清虚熱）：銀柴胡、牡丹皮、地骨皮、知母

[腎陽虛（補陽）：鹿茸、淫羊藿、巴戟天、補骨脂

（利水）：牛膝、車前子、茯苓、豬苓

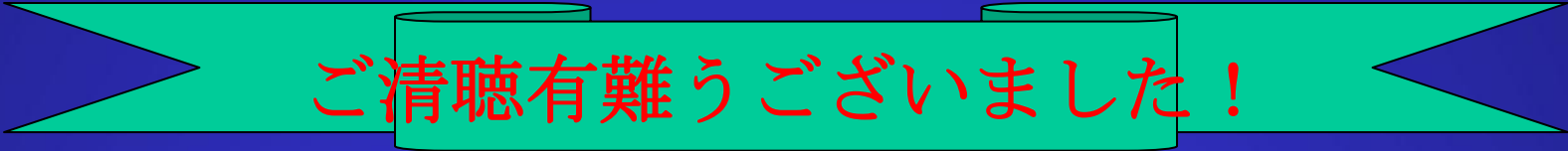
腎不納氣（納氣）：蛤蚧、胡桃肉、山茱萸、五味子

膀胱濕熱（清熱利濕）：薏苡仁、車前子、滑石、沢瀉

(二) 腎病証の漢方治療

弁 証	共通	主な証候	治療	常用方剤
腎陰虚	腰膝だるい、遺精、耳鳴、咽喉干燥	五心煩熱、咽喉干燥、少苔、脈細無力	滋陰養腎	六味地黄丸
腎精不足		知能低下、性機能減退、脱毛齒が揺れる、小児発育不良、泉門閉鎖遅延など	補腎益精	左帰丸
腎陽虚	腰膝だるい、眩暈、耳鳴、寒がり、四肢冷え	インポテンツ、滑精、不妊、頻尿、夜尿多など。	温腎扶陽	八味丸

弁 証	主な証候	治療	常用方剤
腎不納 気	呼吸困難、呼多吸少、動くと息切れ	温腎納 気	参蛤散
腎気不 固	遺尿、尿量増多、尿失禁、遺精滑精、	固腎澀 精	金鎖固精丸、桑螵蛸散
陽虚水 氾	尿量減少、浮腫、寒がり、四肢冷え、舌質淡胖、或は動悸呼吸促迫	温陽利 水	真武湯、牛車腎気丸



ご清聴有難うございました！